



マナパルは、「地域社会」と「子どもたち」の健やかな成長を願い、国際比較文化研究所が設立した「多目的教育施設」です。

MANAPAL by 国際比較文化研究所 〒379-0133群馬県安中市原市3-4-8 TEL/FAX:027-386-8499 MAIL:manapal@auone.jp

東日本大震災によりお亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げます。
そして被害を受けられた皆様とそこご家族に、謹んでお見舞い申し上げます。

被災された皆様の生活と心の平安が、一日も早く訪れますことを祈っています。
現場にて救援・支援活動をされている、心ある方々の支えとなれますよう、
まなぱるは後方支援活動を続けていきます。

.....

【東日本大震災支援活動のご報告（記：まなぱる代表・太田琢雄）】

（詳細は HP にて。 <http://manapal.gunmablog.net/> もしくは「まなぱる」で検索。）

3月16日：支援物資募集開始

…震災から数日。大変な生活を強いられている被災地の方々の元に、必要生活物資が届かないという悲惨かつ歯痒い状況。そのような状況下で、組織内の調整や諸々の足かせに邪魔されることなく迅速にニーズに応じて行動することができるのが、我々のような NPO はじめとする民間団体の長所なのだとことに気付いたのは、お恥ずかしながらもっと後のことでした。この時点では、被災した方々を案ずる思いと、同じ思いを抱く方々がたくさんいるという確信のみで、「まなぱる震災支援」プロジェクトを立ち上げました。被災地への搬送ルートや搬送手段は、他地域で支援活動を開始していた親交の深い団体（・NPO 法人 IFC 解雇ホームレス緊急支援ネットワーク及び NPO 法人 IFC-On Higher Ground: 埼玉県の上里に拠点）が確保してくれました。

偶然にもまなぱるでは 2011 年度に向けて諸連絡のツールとして保護者の皆様にメールアドレスの登録をして頂いていたので、16 日朝に保護者の方々（及び近隣の友人たち）に「支援物資募集」を一斉送信で呼びかけ、ブログでも募集を開始しました。皆様のご協力と「思い」の力で、「まなぱるチェーンメール」は瞬間に近隣に広がり、本当にたくさんの方々が物資を託して下さいました。当日中に 2 トントラック山盛り 2 台分の物資が集まりました。この量には驚愕しました。あの時点で安中市内はじめ近隣では支援物資を受け付ける場所はなかったため、あの日のまなぱるは、地域の皆様の被災地への思いや、何もできない歯痒い思いの受け皿となることのできたのかも知れません。

予想以上の集まりに急遽搬送用の大きめなトラックが必要になったのですが、全てのガソリンスタンドが閉まり、ガソリン不足が深刻化していたあの時期に、二言返事でガソリン入り 2 トントラックを貸してくれた自動車修理屋さんがいました。16 日の物資はそのトラックと市内の民間団体（未来塾）の協力も経て、当日中に上里に搬入することができました。上里で待機していた 15 トントラックは、翌日に出発し宮城県内の被災地に物資を届けてくれました。

…翌日からもまなぱるでの支援物資の受付は続き、NPO 法人 IFC 解雇ホームレス緊急支援ネットワーク及び NPO 法人 IFC-On Higher Ground の献身的な活動のおかげで、多くの被災地・避難所に物資を届けることができました。

3月26日：震災子ども支援物資受付開始

…当初より気がかりだった「子どもたちの心と生活」に支援活動の焦点をあて、「震災を受け

た子どもたちへ送るための物資」です。ランドセル、絵本、本、文房具、おもちゃ、そして子どもたちへの「手紙」など。『震災後の子どもたちの生活の一助となるもの、少しでも彼らの背負うストレスを軽減できるもの』を届けることができればという願いのもと、日本全国から多くの物資を託して頂きました。300個以上のランドセルの他、段ボール数百個分の物資です。

<ランドセル>被災地の施設から他NPO団体を経由し直接頼まれお届けしたものが約40個(宮城・福島)、その他のものは当初の予定通りランドセルメーカーの(株)協和様の「がんばれ!被災地のこどもたち!!みんなでランドセルを贈ろう!」プロジェクトに託しました。(テレビでもよく取材を受けてますね!)千葉工場に届けたランドセルたちは、そこでメンテナンスを受け綺麗に箱に入れられた状態で被災を受けた子どもたちに贈られています。(詳細「ふわり.com」:<http://fuwarii.com/charity/report.html>)

<本・文具・玩具>宮城県仙台市に拠点を構え、最低3年の計画で活動している復興支援団体「こどもあゆむネットワーク」様に託し、被災地の教育施設・保育施設・個人等に届けて頂いています。こどもあゆむネットワークは、子どもたちのことを思い、地域に根付いた地道で長期的な支援をしてきている心ある団体です。

— 震災子ども支援 —



「がんばれ♪」を
手紙に込めて。

現在も引き続き(2011年6月末まで)募集を掛けているのが、被災にあった子どもたちへの「手紙」です。

…受け取っただけでもワクワクしたり。そして中身を読み「これを書いてくれた人はどんな人なんだろう?」と想像したり。そんな特別な『楽しみ』を、子どもたちに届ける活動です。様々なショックを受け、ストレスをためてしまっているお友だちたちにほんのちょっとでも元気を届けられたら…。そんな気持ちで県内をはじめ全国の子どもたち(中学や高校生以上にも)書いてもらっています。

1通の手紙は何の力も持たないかもしれませんが、しかし、世界に1通しかないその手紙は、無限の可能性を持っていると信じています。専門家の方からも、長期的な精神的な

支えとなりうるというありがたい助言を頂いている活動です。すでに、各支援団体様やボランティアの方々のご協力により、各地の被災児たちに手紙が届けられています。

全ての活動は、大勢の民間/学生ボランティアスタッフたちの支えにより行われています。

復興への願いを込めて、まなばるは今後も長期的な視野で、後方支援活動を継続していきます。

◆◆◆ IIMS 会員の皆さまへのご協力をお願い ◆◆◆

①復興支援ボランティアへの募金

大口の「義援金」が様々な条件や規制をくぐりながらじっくりとその出番を待っていますが、それらは「震災直後から各地で非常に繊細で重要な役割を果たしている多数の復興支援団体やボランティアの方々」に届くことはありません。しかし、被災地では「長期に渡る復興支援」が必要とされており、それらの活動を支える資金が必要不可欠です。ここでなくとも構いません。身近に献身的な活動をされている団体がありましたら、ぜひ支援してあげてください。(まなばるでお預かりする支援金は、まなばるの今後の震災支援活動及び、現地で心ある支援活動を続ける皆様(団体・個人)への活動支援金とさせていただきます。)

<郵便振込> 口座番号:00510-0-61974 加入者名:国際比較文化研究所

(通信欄に「震災ボランティア支援金」と御記載下さい。)

②子どもたちに「手紙」を届けてくれる方/団体をご紹介下さい!

一通でも多くの手紙を一人でも多くの子どもたちに届けたいと考えています。ボランティアの方や避難所に精通する方、教育関係・福祉関係の方 etc.どのような方でも、「手紙の意義」に賛同し届け人になっていたような方にお心あたりがあれば、ぜひご紹介下さい。

・・・ 連絡先は 027-386-8499 もしくは manapal@auone.jp まで ・・・